

広瀬裕樹・愛知大学理事長・学長

学生、教員が伸び伸びと活動して 未来の素晴らしさを発信できる大学に

歴史ある愛知県内屈指の伝統校、学校法人愛知大学（名古屋市東区）の理事長・学長に広瀬裕樹氏が11月15日、就任した。法学部長からの選任で、現在52歳。知力、気力、体力とも充実した年齢で一大教育組織のトップに。少子化が進む中、大学経営や教育に課題を抱えつつも、「(教育、研究の)未来を発信できる大学にしたい」と話す広瀬理事長・学長に目指す愛大像を聞いた。

(聞き手は塚本隆編集長)

塚本編集長 理事長・学長ご就任、おめでとうございます。ご感想をお聞かせください。

広瀬理事長・学長 身が引き締まるという思いでいっぱいですね。特に歴史の長い大学ですので、諸先輩方がつくられた大学への思いを受け継ぐということを改めて強く感じています。

——お若いだけに、皆さんの期待も大きいのでは。

広瀬 健康面では心身ともに意欲的ではありますが、選んでいただいた方々の期待も感じています。若さは良い面もありますが、やらなければならないことがたくさんあり、重責を担うという思いが強く、今は知力、体力を大学のために使い尽くしたいと思っています。

——改めて抱負をお聞かせください。

広瀬 一言でいえば、未来の素晴らしさをもっと発信できる大学にしたいですね。愛知大学の未来をつくっていくことに最も価値があります。大学は未来が詰まった学生が集う場所であり、教育や研究面で社会をリードしていくことが求められています。これまで社会貢献を十分やってきましたが、さらに加速して、様々な未来のアイデアを発信していきたいと思っています。

——教育研究の未来をどう切り開いていきますか。

広瀬 まずは、学生や教員の皆さんがやりた

いことを伸び伸びと活動することです。学生はキャンパスライフを謳歌し、教員は研究成果をあげて、それぞれがやりがい追求していくことが必ずや未来につながると考えています。いわば、大学はそれを支える土台つくりの場ですね。

——貴学の特長、教育方針をお聞かせください。

広瀬 本学の建学の精神は3つあります。「世界文化と平和への貢献」「国際的教養と視野をもった人材の育成」「地域社会への貢献」です。これらの追求が特長で、方法論では、学問の基礎力の習熟、実践的な問題解決力の研さん、幅広い視野の習得が大切だと思います。例えば、現代中国学部の学生が中国へ留学して語学等を習得して帰国します。しかし、行っただけではなく、留学経験の話を聞いて影響を受けた他学部の友達がアメリカに留学したい、などと学生の間で、波及効果が生じてほしいのです。法学部ではハワイ大学と連携し、ハワイ大学法科大学院スタディツアーを実施。現地の滞在期間は2週間ほどですが、英語を使って法律を学び、裁判所や法律事務所等さまざまな施設見学もしています。また、ゼミナールでは学生が他大学の学生とディスカッションをしたり、市役所などでプレゼンテーションをしています。

——現在は7学部、1短期大学部、6研究科ですが、任期中に学部新設などを考えていますか。

デジタル分野の 学部再編も視野に

広瀬 何らかの形で着手したいと思っている大きなテーマは、やはりデジタル分野ですね。AI(人工知能)を含めてDX(デジタルトランスフォーメーション)を独立した分野として確保し、学部として未来を築いていく再編ができれば、と考えています。

——貴学の課題と当面の取り組みについてのお考えを。

広瀬 情報発信力を磨かなくては、と思っています。本学は附属の中学、高校を持っていないため、高校生レベルでの知名度が今一つです。ご両親が本学出身者の学生も少なくないのですが、より広く、多くの高校生に、正しい情報を知ってもらい、他大学と差別化された特長を理解してもらいたいですね。もう一つは法人のあり方を変える必要があります。時代状況もありますが、独裁体制にならないよう理事と評議員の兼務を禁じ、本学の伝統ではありますが、理事長と学長の兼務を維持すべきかどうかなど組織改革を検討します。また、本学は3年後に創立80周年を迎えますが、ガバナンスを強化し、教職員がより効果的に時間を使って学生と向き合い、効率よく仕事ができるよう組織を見直したいと思っています。

——各大学の都心回帰が進んでいます。貴学の名古屋キャンパスの効果、学生の反応はいかがですか。

広瀬 名古屋市中村区ささしまライブ地区の名古屋キャンパスは2012年4月に開校しましたが、受験者数が増え、愛知県の尾張地区や岐阜県、三重県からも通学しやすく、学生がたくさん来てくれるようになりましたね。学生の活動範囲も広がり、時間の使い方も変わってきているようです。大学周辺でのアルバイトもしやすく、サークル活動を含めて充実したキャン



広瀬 裕樹(ひろせ・ゆうき) 1971年7月、岐阜県生まれ。95年3月名古屋大学卒。97年3月名古屋大学大学院法学研究科博士課程(前期課程)修了(法学修士)。2002年4月愛知大学法学部講師、准教授などを経て10年4月教授。19年4月法学部長、大学理事・評議員。2023年11月理事長・学長に就任、任期4年。専門は商法、保険法。

パスライフを送っています。

——地域連携、地域貢献の取り組みは。

広瀬 地域貢献はやはり大事に思っています。今年、三重県桑名市と連携・協力に関する協定を締結するなど、30を超える県・市町村等の自治体と連携・協力関係を築いています。その他、公共団体や大学・高校、民間企業等とも連携しており、地域活性化や商品開発、多世代交流、地域情報の発信など様々な活動を継続しています。

——高校生や保護者へのメッセージをお願いします。

広瀬 学生の皆さんが未来を拓けるように育成しますので是非、希望をもって本学に来ていただきたい。学びや交流を通して皆さんの未来は、必ずや明るく開きます。保護者の方も本学の教育にご理解をお願いしたいと思っています。

——ありがとうございます。